

行動は一種の自己表現であると考えられる。したがって、攻撃だけではない表現の方法を教えることが大切であると思われる。小さい頃はまだ自分の気持ちを表現できるほどの言語をもっていないことから攻撃行動を表すことも考えられるが、年齢を重ねるにつれて、特に社会に出て自立した生活をしていくことを考えたときには、自分の気持ちを攻撃行動でしか表現できないことは、その児童にとっても周りにとっても困ることであると考えられる。そのために、できるだけ行動を変化させることが比較的容易にできるうちに攻撃行動という形ではなく、意思を表現する力を身につけておくことが必要になると考えられる。

問題行動への対応における教師の意識に関する研究： スクールカウンセラーの役割について

野澤 真琴

本研究は、反社会的問題行動をテーマに、スクールカウンセリング活動への教師による評価および、その評価に影響を与える要因について調査したものである。

スクールカウンセリング活動がスクールカウンセラー(SC)活用調査研究委託事業として行われるようになってから、一般教師を対象にしたものや養護教諭、生徒を対象にしたもの、SCが自分自身を評価したもの等、様々な調査研究が行われてきている。現在のSC活動の課題として、反社会的問題行動に対する関与の乏しさが指摘されており、SCはどちらかというところ、非行などといった反社会的問題行動よりも、不登校やいじめの問題といった非社会的問題行動に関わるべきであり、反社会的問題行動には教師による指導が必要であるといった意見も存在する。しかし、心理臨床の立場からは、反社会的問題への心理的介入の有効性が指摘されている。また、教師を対象に行ったSCに期待する活動内容についてみると、反社会的問題行動についてもSCの活動を必要としているという結果が示されており、矛盾点が多いといえる。

そこで、本研究では、中学校の教員を対象に、インタビューを通して得た実際の意見から、反社会的問題行動におけるSCへの役割期待に何が影響を与えているのか調べ、その検討を行うことを目的とした。事前調査の結果から、反社会的問題行動に対してSCと共同して対応にあたりたいかという共同志向には、SC活動評価、SCに関する理解やカウンセリングに関する知識、これまでのSCとの接触度、教師がもとから持っている指導観との関係性などが示唆されたため、本調査において、質問紙を作成し、数量的検定を行った。その結果、反社会的問題行動への共同志向に直接的に影響を与える要因となりえたのは、“過去のSCとの反社会的問題行動における共同経験”であった。一方、SC事業の効果に関する意識と関連があったのは、これまでの勤務校においてSCが配属されていた経験の有無であり、SCの課題には、現在の配置状況と接触の深さが関連していた。また、指導観と共同志向性との関連からは、連携的指導方法を効果的と考えているほど、共同志向性が高くなるという結果が得られた。

これらのことから、反社会的問題行動にSCと共同して対応にあたるかどうかの判断については、過去に

おける同様の経験、つまり反社会的問題行動への対応においてSCから何らかの援助を受けたという経験の有無が、影響を与えていることが示唆された。

臨床事例を通じた心理療法における内的治療構造の検討

細川 佳博

本研究の目的は、心理療法における内的治療構造の性質の検討を行うことである。これまで、心理療法の文脈において治療構造は重要な概念として論じられ発展してきた。しかし、その主たる焦点は外的治療構造に合わせられたものであり、内的治療構造に関しては詳細な検討がなされないままであった。しかし実際の心理療法場面において、外的治療構造の観点からだけでは心理療法の展開を説明することは困難であり、内的治療構造の理解が必要である。そこで内的治療構造の性質を検討することが必要となる。

本研究においては、心理療法場面で生じる現象そのものを把握することが求められるため、研究者によって恣意的に構成された臨床事例ではなく、可能な限り逐語的な記録を提示することによって、実際の現象を把握することを意図した。

提示した4つの臨床事例の検討から、内的治療構造の性質に関して以下5点の性質が認められた。①内的治療構造は外的治療構造を決定する影響力を強く持ちうる。②外的治療構造は内的治療構造を保持する力を持つ。すなわち、内的治療構造と外的治療構造の関係は、相互補完的性質にある。③内的治療構造は転移・逆転移を基盤として成立しており、心理療法開始以前から成立しうる関係である。④転移・逆転移の関係は可変的であり、同様に内的治療構造も静的目標の類いとしては捉え難い。⑤内的治療構造は面接場面に限定されることなく、治療終結まで表面的形態は変化させつつも、根本的性質において一貫したものである。

上述の指摘によって、内的治療構造が心理療法の進展において極めて重要な機能を果たしていることが示唆された。